

# 2017年度 自己点検・評価【経済学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1	<b>経済学研究科の理念</b> 経済学研究科は、経済学の高等教育機関として研究者を養成するとともに研究機関として、理論的・歴史的・政策的な研究を行うことにより経済学の進展に寄与することを理念として掲げる。さらに、今日、経済問題の複雑化や社会の高度化に伴って経済学の学習がより広い範囲にわたって必須のものとなっていることから、前期課程の門戸開放に柔軟に取り組んできている。本研究科では、冷静な頭脳と暖かい心情の両方を持ちあわせ、変化する現実の中で国際的な視野と多面的なものを見方をバランスよく習得する点を重視し、経済学を学際的な観点から追求していくことを常に意識している。 (Web サイト)	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	
A-2	<b>経済学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)</b> より高い水準の研究を志す学生に対して、広く経済学の専門研究の機会を提供し、多面的なもの見方や国際的な視野を育成するとともに、経済に対する高度な分析・応用能力を修得させる。社会人に対して、その職業経験と経済学の研究能力との融合をはかり、問題の発見能力とその現実的な解決能力に秀でた高度職業人を育てる。	<b>経済学研究科の目的(Webサイト上)</b> 本研究科は、経済学研究者の需要増大に応じて多くの人材を養成し、大学や研究機関に送り出すことを目的とする。前期課程の門戸開放によって、税理士、会計士、教員、公務員といった専門職に就くための知的訓練の場としても利用されており、また昼夜開講制の社会人コースは、高度職業人やエコノミストとなるために、あるいは幅広い教養を身につけるために活用されている。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
	<b>めざす学生像</b> 研究職を志望する学生については、学界に貢献するために常に自己を研鑽し続ける勤勉な研究者となることをめざす。高度職業人を志望する学生については、経済学の専門知識を駆使し、広く社会に貢献できる職業人となることをめざす。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	
	<b>学位授与方針(ディプロマ・ポリシー;DP)</b> <b>【博士課程前期課程】</b> 博士課程前期課程にあつては、所定の単位を修得し、外国語学力の認定を受け、修士論文または課題研究レポートを提出してその審査に合格し、課程を修了することが学位取得の条件です。また、修士論文を提出するためには、第2学年において修士論文中間報告会で論文内容についての報告を行い、指導教員以外の教員から指導と助言を受けることも要件となっています。 修士論文の審査では、専門分野での広範かつ高い水準の専門知識や優れた分析手法に基づいて独創的な論文となっているかどうかを基準に可否の判定がなされます。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	
	<b>【博士課程後期課程】</b> 博士課程後期課程にあつては、所定の演習単位および指導教員が履修を指示した科目の単位を修得していること、外国語学力の認定を受けていること、国内外での学会報告を2回以上行っていること、単著または共著の論文を2編以上(うち1編以上は査読付学術雑誌に投稿され、受理(掲載許可)されたもの)作成していること、経済学ワークショップでの研究報告を行っていること、を要件として、博士学位申請論文を作成し、提出することができます。 学位申請論文の審査は、専門分野での最新の知見を摂取したうえで独創的な視点で、高度な分析手法と優れた考察力などによって論文が作成され、国内外の学界や社会への知的貢献が大きいものとなっているかどうか等を基準に学位授与の可否の判定がなされます。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し	

# 2017年度 自己点検・評価【経済学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-1.「理念」、A-2.「目的」「めざす学生像」「学位授与方針」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「経済学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」は、「A-1. 経済学研究科の理念」に沿い、めざす方向性を適切に表現しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	「経済学研究科の目的(Web サイト上)」は、A-2「経済学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」に沿った内容であり、社会に対して分かりやすい表現になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	「めざす学生像」と「学位授与方針」は、A-2「経済学研究科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(学則上)」、「経済学研究科の目的(Web サイト上)」と整合性が取れ、目的の実現に向けて相応しい内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針は、学位授与にあたり、学位授与基準および当該学位に相応しい学習成果を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	学位授与方針に基づく学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認6】	目的、「めざす学生像」、「学位授与方針」は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年11月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年7月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-3

教育研究目標		変更の有無
目標1	(タイトル) 規模に応じた教育、研究支援体制を再構築する。	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 大学院生の人数が少ないことを利用して、履修者数や履修者の個々のニーズに応じた授業を提供できるよう、カリキュラム体制を改善する。また、研究職志望の大学院生に対して、学外、とくに海外での研究報告の支援を提供する。	
目標2	(タイトル) 国際的に活躍する専門知識を備えた職業人を養成するため、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する。	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 経済学の専門知識を備え国際的に活躍する高度職業人を養成するために、国連・外交コースを履修する制度を整備する。前期課程は2年しかないので、国連・外交コース履修準備のために学部教育との連携を図る。	
目標3	(タイトル) 対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく研究科を目指す。	□有り ☑無し
	(狙い・内容) 教員による研究活動を活性化し、社会へその成果を還元していくために、学術誌、ディスカッションペーパー、セミナー、コンファレンスなどにおける研究発信に加え、研究科ホームページなどICTを利用した情報発信を充実させていく。特にグローバル化が進むなかで、英語での情報発信を増やしていく。	

A-3.「教育研究目標」に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	「教育研究目標」は、A-2「目的」、「めざす学生像」の実現に向けて、相応しい内容であるか、適切な表現であるか。	☑はい □いいえ
【確認2】	「教育研究目標」は、教育の質向上に向けた意欲的な内容になっているか。	☑はい □いいえ
【確認3】	「教育研究目標」は、周知・公表されているか。	☑はい □いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年11月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。		☑1. 検証を行った(2017年7月)      □2. 検証を行っていない。(予定: 年 月)
検証プロセス	検証方法(どのように)	学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果	☑検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。  □検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。      →      □既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) →      □今後見直す予定である。(見直し計画: ) →      □その他 ( )
	判断根拠	教授会議事録、規程・規則・内規、履修心得、Webサイト
周知・公表方法	☑規程、規則、内規    ☑履修心得    ☑学院Webサイト    □パンフレット、リーフレット等    □その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-4

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー;CP)	変更の有無
<p>経済学研究科の理念は、経済学の高等教育機関として研究者を養成するとともに、研究機関として理論的・歴史的・政策的な研究を行うことにより経済学の発展に寄与することです。そして、冷静な頭脳と暖かな心情の双方を持ち合わせ、変化する現実のなかで国際的な視野と多面的なものを見方をバランスよく習得することを重視し、経済学を学際的な視点から追究していくことを常に意識しています。</p> <p>本研究科の目的は、経済学研究者の需要増大に应运えて多くの人材を養成し、大学や研究機関に送り出すことにあり、教育目標として、①経済学界の発展に対して今まで以上に新しい学問動向をより迅速に研究・教育に反映できるシステムを作る、②専門職に就くためや高度職業人の養成のため、他の研究科との連携を進め、アカデミズムと実務の融合を目指す多様なコースメニューを用意する、を掲げています。</p> <p>こうした理念と目的、目標を実現するために、本研究科では以下の方針に基づいてカリキュラムが構成されています。</p> <p><b>【博士課程前期課程】</b></p> <p>博士課程前期課程では、学士課程で学んだ経済学の知識を発展させ、より高度な専門知識と分析能力を習得し、質の高い修士論文の作成と学位取得を目標とします。</p> <p>将来、大学や研究機関等での研究者になることをめざしている大学院生に対しては、そのために必要な高度の資質と能力を養ってもらうため、専門分野を横断して身につけておくべき科目としてリサーチ・コア科目を設定し、その全部または一部の履修を義務づけています。また、前期課程を修了したあと、そこで得られた専門知識をいかして専門職や高度職業人、民間企業、国や地方公共団体の公務員等としての活躍をめざしている大学院生に対しては、経済学の広範で高水準の教養を培ってもらうため、スタンダード・コア科目を設定し、その全部または一部の履修を義務づけています。</p> <p>研究者志望の大学院生、それ以外の大学院生ともに、これらのコア科目を前期課程での学習の共通基盤として学び、経済学専攻の大学院生としての学問的素養を高めつつ、それぞれの研究課題に沿った専門科目を履修します。専門科目については、大学院生の多様で高度な学問的欲求を満たせるように、また経済問題の複雑化に対応できるように、経済学の最先端の領域から伝統的な分野まで広範かつ体系的な科目提供を行い、そのあり方についての定期的な検討・見直しを行っています。</p> <p>コア科目を含め、どのような科目の履修を行うかは、個々の大学院生の大学院進学目的とニーズ、将来の目標、適性と能力などに応じて、指導教員からの指導が行われます。</p> <p>修士論文の作成に際しては、第2学年の修士論文中間報告会(公開で実施)においての報告が義務づけられ、より優れた論文の完成に向け、指導教員以外のさまざまな分野の教員からの指導と助言を受ける機会が与えられています。</p> <p><b>【博士課程後期課程】</b></p> <p>博士課程後期課程では、国際的な水準での評価にも耐え得るような高度な課程博士論文の作成と学位取得を目標とします。</p> <p>この目標を実現するために、指導教員の指導の下で研究を遂行し、科目の履修等も指導教員の指導で行われます。必要に応じて1人の大学院生に対して指導教員を中心とした研究指導グループが学位申請論文や研究論文の作成等の指導にあたる体制が用意されています。</p> <p>また、第1学年から第3学年までの各年度に行うべき研究報告や研究論文の作成・発表が博士学位取得プロセスのガイドラインとして示され、それに沿って順序だった研究教育指導が行われます。</p> <p>学外からも研究者を招聘して行われる経済学ワークショップでの研究報告はすべての大学院生に義務づけられ、学位申請論文提出の要件の一つとなっています。</p>	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-4. 教育課程の編成・実施方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	教育課程の編成・実施方針は、A-2「めざす学生像」、「学位授与方針」、A-5「学生の受け入れ方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教育課程の編成・実施方針は、A-3「教育研究目標」の達成に向けて相応しい内容となっているか、表現は適切か。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教育課程の編成・実施方針は、教育課程の編成や、教育内容、教育方法等に関する考え方を明確に示しているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学位授与方針の内容を実現するために、教育課程の編成・実施方針は適切な内容となっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認5】	教育課程の編成・実施方針は周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年11月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。		<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年7月) <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/>2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)</span>
検証プロセス	検証方法(どのように)	学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="margin-left: 100px;"> <span style="font-size: 2em;">→</span> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)  <span style="font-size: 2em;">→</span> <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。(見直し計画: )  <span style="font-size: 2em;">→</span> <input type="checkbox"/>その他 ( )                     </div>
	判断根拠	教授会議事録、規程・規則・内規、履修心得、Webサイト
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018 年 2 月 22 日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-5

学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー; AP)	変更の有無
<p>これまで、大学院教育が担うべき役割は、それぞれの領域の学問を究め、得られた新たな知見・知識を後世に継承する研究者を養成することでした。しかし、昨今の社会情勢や時代の大きな変化に伴い、大学院教育が担う役割も多様化しています。それらの社会情勢や時代の変化に応じて、本研究科では以下のような能力を備えた、幅広い人材の育成を目指します。</p> <p>具体的には、教育や研究指導を通じて、大学院学生に次のような力をつけることを目指します。</p> <p>(1)現代の経済や社会の諸問題等への直感的理解のみならず、論理的考察をする能力。                  (2)歴史的観点から現代の諸問題を考察する能力。                  (3)経済統計や計量分析など、データや数量的手法を駆使した客観的な分析能力。                  (4)他者と協力し、チームとして問題解決に立ち向かう能力。</p> <p>以上の点をふまえ、本研究科では次のような方々の進学・入学を希望します。</p> <p>(a)学部教育に加え、経済学を理論的、実証的、あるいは歴史的に深く学びたい方。                  (b)経済学や社会科学、社会経済の歴史的研究を究め、大学教員などの研究者を目指す方。                  (c)大学院において、専門知識や様々なデータ処理方法、数量的手法を身につけて、企業および国などの公的機関への就職を目指す方。                  (d)職場や社会で得た事例や経験を経済学や社会科学の論理で捉えなおし、現実の課題解決に役立てたい方(エコノミスト・コース)。</p>	<p><input type="checkbox"/>有り  <input checked="" type="checkbox"/>無し</p>

A-5. 学生の受け入れ方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生の受け入れ方針は、A-2「学位授与方針」、A-4「教育課程の編成・実施方針」と整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	学生の受け入れ方針は、理念・目的、教育研究目標を踏まえ、入学時に求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の受け入れ方針と、実際の学生募集方法、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生の受け入れ方針は、周知・公表されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年 11 月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
前回の概票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年7月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠	<input type="checkbox"/> 既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。) <input type="checkbox"/> 今後見直す予定である。(見直し計画: ) <input type="checkbox"/> その他 ( )
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input checked="" type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
 ～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6

学生支援に関する方針		変更の有無
	学力、修学目的、経済的事情などについて、個々の学生のニーズに応じて適切な支援を提供する。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
修学支援	入学前教育(博士課程前期課程) 「経済数学」を今後の教育研究活動における重要な科目と位置付けており、その知識を前もって身につけておくことが必要であると考え、入学予定者を対象として、入学前の3月中に1週間の集中講義形式による「Math. Camp」を実施している。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
生活支援	学費負担の軽減 本研究科では、大学院生の研究を助成することを目的として、「龍象奨学金」制度を設けている。研究科発行の学術雑誌や明確な査読つき学術雑誌に掲載された(あるいは掲載予定)の論文を対象として選考委員会にて毎年1名を選考し表彰し、10万円を支給する。 また、研究を助成することを目的として、外国語論文執筆補助制度、海外学術雑誌への投稿を促すための校閲料・投稿料・抜き刷り代金の一部補助の制度がある。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
進路支援	研究職志望者には学位取得プロセスを明示し、研究職に応募できる要件を早く満たせるように指導する。高度職業人志望者には、国連・外交コースとの連携や、税理士資格取得のために必要な修士論文指導を行う。	<input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し

＜理念、目的、教育研究目標、方針等＞設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日：2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-6. 学生支援に関する方針について、適切性および検証体制・検証プロセスの確認		チェック欄
【確認1】	学生支援の方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえた内容になっているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	方針に沿って、修学支援、生活支援、進路支援のための仕組みや体制を整備し、適切に運用しているか。  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             (下記のことが明らかであることに留意する。)              &lt;修学支援&gt;              ・留年者及び休・退学者の状況把握と対処              ・学生の能力に応じた補習・補充教育の実施              ・障がい学生に対する修学支援の実施              ・奨学金等の経済的支援の実施              &lt;生活支援&gt;              ・学生相談室等、学生の相談に応じる体制の整備、学生への案内              ・各種ハラスメント防止に向けた取り組み           </div>	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	学生の進路支援は、入学者の傾向等の特性を踏まえながら、進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施の点から取り組んでいるか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認4】	学生支援に関する方針(修学支援、生活支援、進路支援)は、教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年11月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録
前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年7月) <input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)	
検証プロセス	検証方法(どのように)	学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果	<input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。  <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;">     </div> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <input type="checkbox"/>既に見直した(→A票変更点記述シートを作成した。)  <input type="checkbox"/>今後見直す予定である。              (見直し計画: )  <input type="checkbox"/>その他              ( )           </div>
	判断根拠	教授会議事録、規程・規則・内規、履修心得、Webサイト
周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input checked="" type="checkbox"/> 履修心得 <input checked="" type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )	

<理念、目的、教育研究目標、方針等> 設定・確認シート  
 ~検証状況の確認~

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

A-7	<b>教員像</b> 一方では学界に貢献するために常に自己を研鑽し続ける勤勉な研究者でなければならない、他方では、学生たちの成長を自らの喜びとするような熱心な教育者でなければならない。経済学研究科教員は、近年、一般社会ならびに学生によって、それらの両立をますます要求されるようになっている。	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
-----	--	--

無しの場合どのように設定するか？	責任主体・組織	
	設定方法	
	設定見込み時期	

<b>教員組織の編制方針</b> 教員は、さまざまな提供科目に応じて、分野別のグループに分かれて配置されている。しかし、時代の変化とともにカリキュラム体系も変えていく必要があり、それに応じて教員の編成も変えていく必要がある。そこで、研究科全体の見地から教員の構成を常に見直すことができるようにしている	変更の有無 <input type="checkbox"/> 有り <input checked="" type="checkbox"/> 無し
---	--

<b>A-7. 教員像、教員組織の編制方針に関する、適切性および検証体制・検証プロセスの確認</b>	<b>チェック欄</b>
--	--------------

【確認1】	教員像は、教員に求める能力・資質、教育に対する姿勢等を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認2】	教員組織の編制方針は、組織的な教育を実施する上において、必要な役割分担や規模(人数)、教員の専門分野やスキル構成、責任体制、を明確にしているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【確認3】	教員像・教員組織の編制方針は教職員で共有されているか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

適切性の検証体制を明確にしているか	責任主体・組織(だれが)	大学院研究科委員会(議長:研究科委員長)
	検証手続き(どこで)	大学院執行部会での審議を経て、毎年4月の大学院研究科委員会において決裁・承認する。
	決定・判断時期(いつ)	毎年11月
	検証エビデンス	研究科委員会・議事録

前回の帳票提出後、適切性の検証を行ったか。	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 検証を行った(2017年7月)	<input type="checkbox"/> 2. 検証を行っていない。→(予定: 年 月)
-----------------------	--	--

検証プロセス	検証方法(どのように) 学部自己点検評価委員会で7月中に検証を実施し、大学院執行部会に報告。大学院執行部会で内容を審議した。
	検証結果 <input checked="" type="checkbox"/> 検証の結果、課題はなく見直す必要がなかった。 <input type="checkbox"/> 検証の結果、課題があり見直す必要があると判断した。
	判断根拠 教授会議事録、規程・規則・内規、履修心得、Webサイト

周知・公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 規程、規則、内規 <input type="checkbox"/> 履修心得 <input type="checkbox"/> 学院Webサイト <input type="checkbox"/> パンフレット、リーフレット等 <input type="checkbox"/> その他 ( )
---------	---

# 2017年度 自己点検・評価【経済学研究科】

A票

<理念、目的、教育研究目標、方針等>設定・確認シート  
～検証状況の確認～

提出日:2018年2月22日

責任者	経済学研究科委員長	作成部局	経済学研究科
-----	-----------	------	--------

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 前年度の第三者評価で指摘されていましたが、学生の受け入れ方針では、「深く学びたい方」「研究者を目指す方」「公的機関への就職を目指す方」「課題解決に役立てたい方」を受け入れると、だけ記載されており、入学までに取得しておくべき知識などの内容・水準などを明らかにしていないと感じます。これらを含めた記述にすることが期待されます。(A)
- ・ 適切に自己評価が行われており、評価できます。(E)
- ・ 検証プロセスにおける「判断根拠」の記入漏れが散見されます。学部自己点検評価委員会や学部長室会では、何をもとに検証したのか、するのか、明確にしておくことが求められます。(F)
- ・ DPIについては学生が身に付けるべき資質・能力の目標を明確に示す必要があり、見直しが求められます。(G)
- ・ 適切性の検証が実施されており、評価できます。(I)